

■東龍太郎 医学者・スポーツ功労者。戦後日本初のIOC委員となり、東京オリンピックを誘致、都知事となって事業を推進した。

あずまりょうたろう

郡司千島探検1893＝ 大阪市で、医師東藤九郎の長男に生まれる。

日清戦争始・1894＝ 1歳：

教科書疑獄・1902＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝12歳：

天王寺中学を経て、

大逆事件判決1911＝18歳：

明治天皇没・1912＝19歳：

第一高等学校を首席で卒業し、東京帝国大学医科大学に入学。

大学時代には、ボート選手として活躍して、

ロシア革命・1917＝24歳：卒業。大学院に進み、

本格政党内閣1918＝25歳：副手になる。

大暴落・・・1920＝27歳：

原敬首相暗殺1921＝28歳：_ロンドン大学に留学、

_A. V. ヒル教授研究室で体育生理学を専攻して、

円本時代始・1926＝33歳：_帰国。医学博士を取得し、東京帝国大学医学部助教授となって、日本にスポーツ医学の新分野を開く。

世界恐慌・・・1929＝36歳：

満州事変・・・1931＝38歳：

五一五事件・1932＝39歳：翌年にかけて、欧米に出張。

帝人疑獄事件1934＝41歳：東京帝国大学教授に昇格し、薬理学第二講座を担当。

芥川直木賞始1935＝42歳：この年、嘉納治五郎が出席したオスロでのIOC総会で、4年後の東京オリンピック開催が決定されるが、

日中戦争始・1937＝44歳：日中戦争が始まるとともに、開催が困難になって行き、

健保+総動員 1938＝45歳：この年、カイロでのIOC総会に出席した嘉納治五郎が、帰途船上で客死したこともあって、ついに返上。

日米開戦・・・1941＝48歳：東京高等体育学校校長を兼任、

・・・1942＝49歳：さらに、教授のまま、海軍司政長官(南西方面艦隊民政府衛生長官)を務め、

年金+総武装 1944＝51歳：教授専任に戻るが、

敗戦・・・1945＝52歳：戦後も、

新憲法公布・1946＝53歳：教授のまま、厚生省医務局長、さらに、

新憲法施行・1947＝54歳：*日本体育協会の会長に就任。

極東裁判決・1948＝55歳：_日本オリンピック委員会委員長となって、スポーツの国際復帰に努め、

朝鮮戦争始・1950＝57歳：IOC(国際オリンピック委員会)総会で*日本から戦後初めてのIOC委員に選任され、

独立回復・・・1951＝58歳：医務局長を退任、

_オリンピックの東京招致に尽力。

TV放送始・・・1953＝60歳：東京大学を定年退官、名誉教授となる。茨城大学学長に迎えられ、

国連加盟・・・1956＝63歳：

インスタマン・1958＝65歳：茨城大学学長、_体育協会会長を退任し、

美智子妃・・・1959＝66歳：*東京都知事に当選、その年IOC総会は第18回オリンピックの東京開催を決定。

安保闘争・・・1960＝67歳：

東京オリンピック 1964＝71歳：_東京オリンピック開催。

大学紛争始・1965＝72歳：

美濃部都知事1967＝74歳：_都知事を辞任。

震ヶ関ビル・1968＝75歳：*IOC委員を辞任して、終身名誉委員に推される。日本赤十字社社長となり、

東邦大学学長も務めながら、

石油ショック 1973＝80歳：

角栄金脈辞任1974＝81歳：

成田衝突・・・1978＝85歳：_退任して、

ディズニークラント 1983＝90歳：_没した。

妻照子は山川健次郎の娘。

平凡社百科事典、日本近現代人物履歴事典、